

金沢城調査研究所年報 13

(令和元年度)

令和2年6月

石川県金沢城調査研究所

目 次

I 組織と運営

1 組 織	1
2 委 員 会	1
3 職 員	4
4 分 掌 事 務	4

II 事業報告

1 金沢城調査研究事業	5
2 金沢城資料収集・デジタル化事業	18
3 金沢城情報発信事業	19
4 その他の事業	22
事業費	27
石川県金沢城調査研究所日誌(抄)	28
金沢城に関する新聞報道	30

I 組織と運営

1 組織

(1) 沿革

平成13年7月、石川県教育委員会事務局文化財課内に設置された金沢城調査室は、平成19年4月に改組し、石川県金沢城調査研究所となった。平成14年度から本格的な調査研究事業に着手し、令和元年度は18年目となる。

石川県金沢城調査研究所



(2) 根拠法令

学校以外の教育機関等設置に関する条例 第2条

名 称	位 置	事 業 内 容
石川県金沢城調査研究所	金沢市	金沢城の調査研究及び普及に関すること

2 委員会

(1) 金沢城調査研究委員会

第1回は、令和元年6月26日に開催し、令和元年度の調査研究事業の概要について協議した。
第2回は、令和2年2月20日に開催し、令和元年度の事業成果について協議した。

(2) 金沢城調査研究専門委員会

絵図・文献、建造物、埋蔵文化財、伝統技術（石垣）の各分野ごとに会議や現地調査を実施し、各調査研究事業に関して、指導・助言を受けた。なお、埋蔵文化財と伝統技術（石垣）は相互に密接に関連することから、会議等は合同で行った。

絵図・文献専門委員会は第1回を7月23日に、埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会は第1回を6月7日に実施した。なお、絵図・文献専門委員会の第2回および埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会、建造物専門委員会をそれぞれ3月11日、3月13日、3月18日に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止の観点から中止となった。

(3) 金沢城調査研究関係機関連絡会

各機関の代表者を招き、令和元年6月11日に開催した。金沢城調査研究所からは、今後の調査研究事業の計画、最近の主な成果（刊行物等の紹介など）等を報告した。

また、東京大学埋蔵文化財調査室から江戸本郷邸の調査（東京大学構内）について、金沢市文化財保護課からは平成30年度の発掘調査事業の調査状況や報告書刊行事業等について報告があった。その他、情報交換を行い、今後とも連携を密にして調査研究事業を進めることとした。

【出席者】

菊池 浩幸	公益財団法人 前田育徳会
吉竹 泰雄	公益財団法人 成巽閣館長
成瀬 晃司	東京大学埋蔵文化財調査室
岩見 雅史	金沢大学附属図書館長
楠 正勝	金沢市埋蔵文化財センター所長
小西 昌志	金沢市立玉川図書館近世史料館
宮崎 良則	石川県立歴史博物館副館長
垣内光次郎	公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター所長

金沢城調査研究委員会委員名簿（◎委員長）

氏名	役職名	備考
◎平井 聖	東京工業大学名誉教授	建築
嶋崎 丞	石川県立美術館長	美術工芸
中村 利則	京都造形芸術大学大学院客員教授	建築
飛田 範夫	元長岡造形大学教授	庭園
吉岡 康暢	国立歴史民俗博物館名誉教授	考古

金沢城調査研究専門委員会委員名簿（◎専門委員会委員長）

分野	氏名	役職名
絵画・文献	◎宮崎 勝美	元東京大学史料編纂所教授
	袖吉 正樹	金沢市立玉川図書館近世史料館司書
	竹松 幸香	前田土佐守家資料館学芸員
建造物	◎中村 利則	京都造形芸術大学大学院客員教授
	河田 克博	元名古屋工業大学教授
	麓 和善	名古屋工業大学教授
	増田 達男	金沢工業大学教授
	吉田 純一	FUT 福井城郭研究所所長
埋蔵文化財	◎吉岡 康暢	国立歴史民俗博物館名誉教授
	久保 智康	京都国立博物館名誉館員
	千田 嘉博	奈良大学教授
	森島 康雄	京都府立丹後郷土資料館資料課長
伝統技術 (石垣)	◎北野 博司	東北芸術工科大学教授
	市川 浩文	佐賀県地域交流部 文化・スポーツ局 文化課文化財保護室 文化財調査担当係長
	金田 明大	国立文化財機構奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長
	西形 達明	関西地盤環境研究センター顧問
	宮里 学	山梨県教育委員会埋蔵文化財センター 副主幹・文化財主事

3 職員

名誉所長	北垣聰一郎	主任主事	大西 泰正
所長	木越 隆三		川名 俊
副所長	橋木 英道	非常勤嘱託	岩井紀美子
総括担当課長	富田和気夫	＊	知田真衣子
担当課長	石野 友康	＊	矢部 史朗
＊	滝川 重徳	＊	笠松 一美
主幹	柿田 祐司	＊	広多 美幸
＊	大西 顕	＊	小倉 沙姫
企画管理専門員	坂谷 知信	＊	玉鉾 美智
調査研究専門員	西田 郁乃		
＊	安中 玲美		
＊	荒木麻理子		
＊	加藤 克郎		
企画管理専門員	空 良寛		

4 分掌事務

- ・ 所事務の総括に関する事
- ・ 調査研究の総括に関する事
- ・ 所員の服務に関する事
- ・ 公印の管守に関する事
- ・ 調査研究委員会等の運営に関する事
- ・ 発掘現場の労働安全衛生に関する事
- ・ 関連部局との連絡調整に関する事
- ・ 絵図・文献の調査研究に関する事
- ・ 『編年史料』等の編纂に関する事
- ・ 普及啓発に関する事
- ・ 城郭庭園等の総合研究に関する事
- ・ 埋蔵文化財調査に関する事
- ・ 二の丸御殿の調査検討に関する事
- ・ 鼠多門・鼠多門橋の埋蔵文化財調査に関する事
- ・ 発掘調査報告書の作成に関する事
- ・ 埋蔵文化財資料（遺構・遺物等）の集成に関する事
- ・ 施設・物品・出役の管理等に関する事
- ・ 石垣保存管理技術等の総合研究（石垣カルテを含む）に関する事
- ・ 埋蔵文化財発掘調査報告書の作成・刊行に関する事
- ・ 資料の保存管理・公開活用に関する事
- ・ 情報化の推進に関する事
- ・ 記録資料及び出土品等の収蔵管理に関する事
- ・ 伝統技術（石垣）の調査研究に関する事
- ・ 『研究紀要』等の刊行に関する事
- ・ 電子情報発信に関する事
- ・ 関連城郭等との連携に関する事
- ・ シンポジウムの開催等に関する事

Ⅱ 事業報告

1 金沢城調査研究事業

(1) 総合研究事業等

ア 城郭庭園等の総合研究－切石積石垣確認調査－

事業概要

平成29年度より、庭園の構成要素の一つである切石積石垣の確認調査に着手した。本事業は、埋設している初期の切石積石垣を発掘して、出現期の実態（場所・意匠・技術等）を明らかにし、外観や意匠を重視した「見せる石垣」が生み出された技術的・社会的背景を探ることを目的とする。

令和元年度は玉泉院丸北調査区（色紙短冊積石垣東面（2640E）と納戸土蔵下石垣（2620S）との入角部一帯）を対象に調査を実施した。

なお、調査にあたっては、金沢城調査研究埋蔵文化財専門委員会委員及び伝統技術（石垣）専門委員会委員の現地指導を受けた。

調査期間	令和元年5月7日～9月3日	調査面積	15㎡
現地指導	令和元年7月12・19日	現地公開	令和元年8月25日

調査の成果

・玉泉院丸庭園の要である色紙短冊積石垣が、17世紀後半に新たに構築されたことが判明した。

色紙短冊積石垣には、庭園の作庭年代（寛永11年・1634）より下る、石垣編年5期（寛文年間頃、17世紀後半）の特徴が認められるが、この時に新設されたのか、作庭段階からあった石垣が改修された姿なのか課題となっていた。

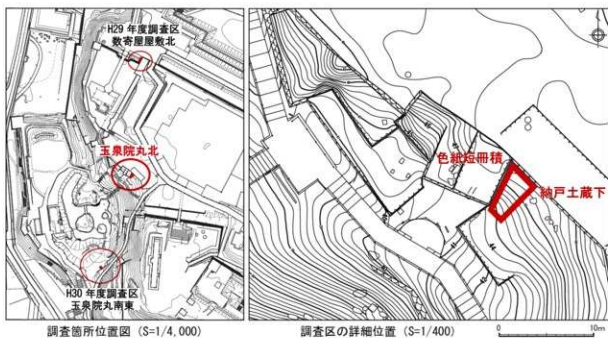
石垣の東面において、土に埋まっていた基礎部を掘り下げたところ、上部と同じ様相の石積が最下段まで続いている状況を確認した。このことから色紙短冊積石垣は、平面の設計プランも含め、石垣編年5期に新設されたと考えられる。

・納戸土蔵下石垣も同時期に構築されたことが判明した。

色紙短冊積石垣に隣接する納戸土蔵下石垣は、「金場取残（かねばとりのこし）積」の要素をもつもので、近世後期（18世紀後半以降）の特徴が窺える。その基礎部を掘り下げたところ、改修を受けていることが取残され、下部において石垣編年5期に位置付けられる典型的な金場取残積の石垣を確認した。また地盤と基礎の状況からみて、色紙短冊積石垣と一体的に構築されていることが判った。

・庭園整備・切石積石垣の変遷上、17世紀後半が大きな画期であったことが改めて認識された。

昨年度の成果等も踏まえると、玉泉院丸庭園では、作庭時（17世紀前半）に匹敵する大規模な整備が、17世紀後半に行われたことが窺われる。寛文年間（1661～73）は、江戸で生まれ育った五代藩主前田綱紀が入国（寛文元年）し、改めて金沢城の整備を進めた時期に相当する。玉泉院丸庭園における景観の一新も、その一環であったと考えられる。



調査箇所位置図 (S=1/4,000)

調査区の詳細位置 (S=1/400)



調査箇所と近世後期の絵図



調査区発掘状況

左：色紙短冊積石垣 右：納戸土蔵下石垣



近世後期造成土

納戸土蔵下石垣の改修に対応

切石積石垣確認調査概要図 1



色紙短冊積石垣東面

色紙短冊積石垣の東面・西面は粗加工石積で構成され、石垣編年4期（寛文年間頃、17世紀前半）製作の刻印をもつ石材が集中する。意匠的な効果を狙って、古材を再配置したと考えられる。積みは5期（寛文年間頃、17世紀後半）の特徴を示す。



納戸土蔵下石垣

当初は典型的な金場取残積として、色紙短冊積石垣と同時に構築された。近世後期には、下部を除き金場取残積の特徴を残した切石積に改修された。この改修にあわせて、地盤も嵩上げされた。

切石積石垣確認調査概要図2

イ 石垣保存管理技術等の総合研究

事業概要

令和元年度も昨年度と同様に、金沢城内の石垣保存状態について詳細調査を実施した。

事業内容

① 石垣の保存状態に関する調査

a 変形動態に関する調査

- ・石垣の経年変化量の実態把握

方法：三次元計測データの差分比較

対象：玉泉院丸北泉水縁石垣（H20→H30）、三ノ丸北石垣（H16→H29）

結果：玉泉院丸北泉水縁石垣は、槽台状石垣の左側（北部）に累積的な変位が発生している。差分比較の結果、石垣面の全域が概ね同程度の速さで変位していることが確認された。石材間の接点が多い切石積石垣であるが故に、影響範囲が広がっていると考えられる。

三ノ丸北石垣は、3か所に孕み出し変形が発生しており（変形①～③）、近年の定点観測で天端付近から変位の微増が看取されていた。差分比較の結果、2か所（変形①、③）で、微速ながら孕み出しに対応した変位の進行が認められ、天端付近も同様であった。残り1か所（変形②）は計測誤差が大きく、変位の進行の有無は判定が困難であった。

b 石垣の内部変形に関する調査

- ・構築時期の違いによる裏込めの技術的な様相差を検討

方法：石垣の隙間から内部の様子を観察及び写真撮影

対象：寛文期に創建又は修築された石垣

（土橋門西続石垣、薪ノ丸石垣）

結果：寛文5年普請の土橋門西続石垣は、一部が撤去されて石垣内部が露出している。隅角部・築石部ともに奥行きが長く規格的な石材が使用され、河原石の介石で石尻を固定した後、築石の間を小砂利で充填する様子が観察された。翌年に普請された薪ノ丸北石垣や、寛文8年普請の二ノ丸菱槽石垣（H11解体調査）でも同様の所見が得られており金沢城5期を特徴づける技法的要素の一つと考えられる。



築石間の小砂利（土橋門西続石垣）

② 石垣保存管理技術に関する検討会の開催

金沢城石垣に関する調査資料について、専門委員会委員と詳細検討を行うとともに、石垣保存管理技術を巡る全国動向や最新の研究状況等について検討会を開催。

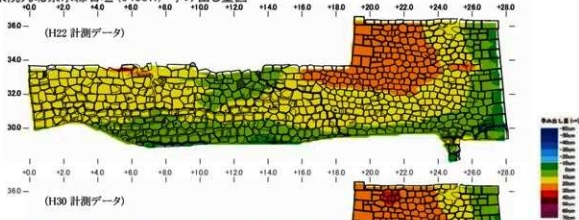
【第16回】令和元年6月7日（金）午前

石垣保存管理技術の調査方法に関する検討会

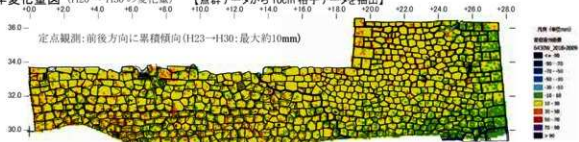


【調査箇所】

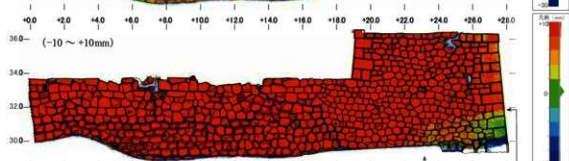
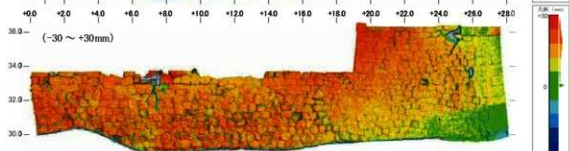
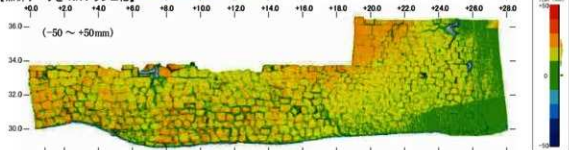
玉泉院丸北泉水縁石垣 (6430W) 孕み出し量図



経年変化量図 (H20 ~ H30 の変化量) 【点群データから 10cm 格子データを抽出】



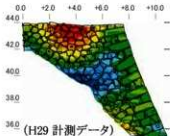
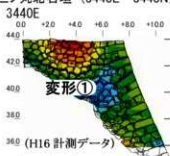
【点群データを TIN メッシュ化】



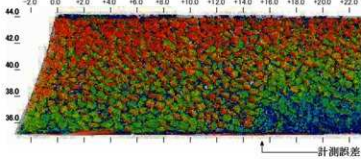
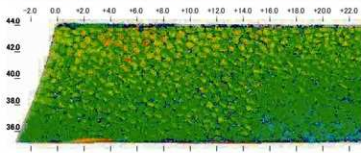
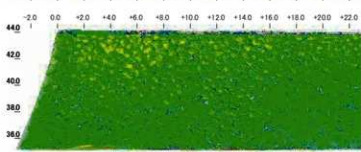
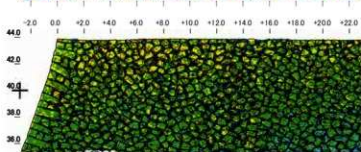
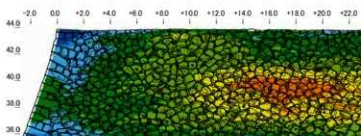
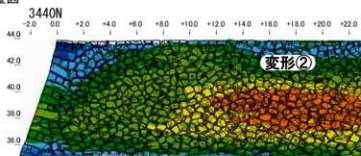
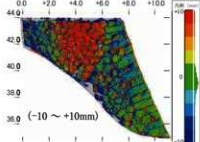
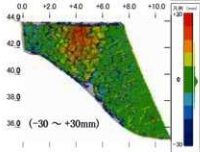
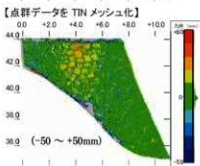
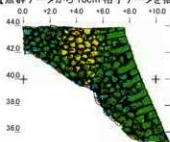
玉泉院丸北泉水縁石垣変形動態

計測誤差による色調変化が顕著となる

三ノ丸北石垣 (3440E・3440N) 孕み出し量図

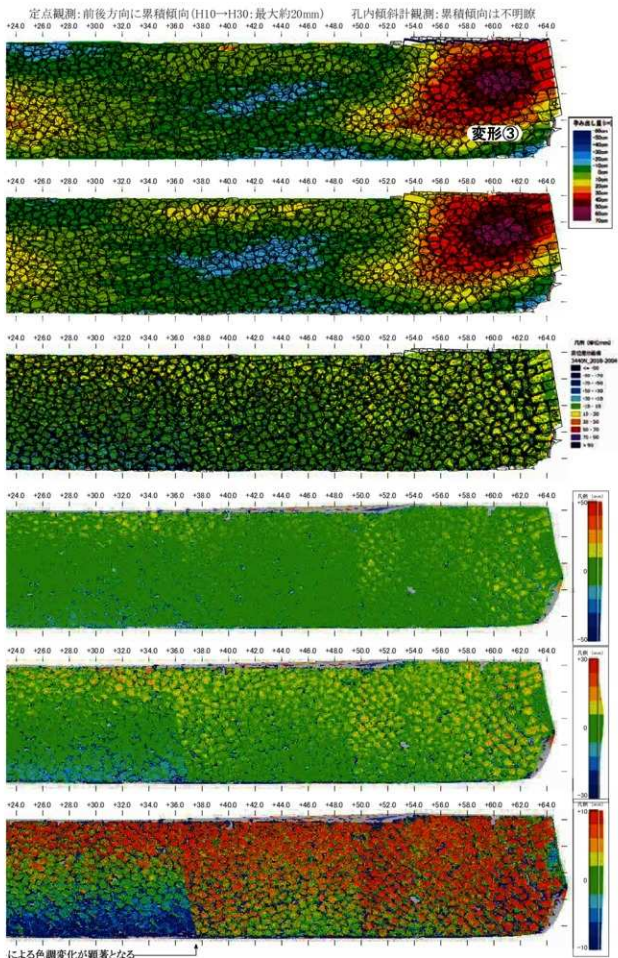


経年変化量図 (H16～H29の変化量)
【点群データから10cm格子データを抽出】



三ノ丸北石垣変形動態

計測誤差



三ノ丸北石垣変形動態

ウ 金沢城関連城郭等との連携

事業概要

金沢城及び金沢城関連城郭・城下等の調査研究に携わる機関が一堂に会して、調査研究に係る情報やその成果を共有し、相互の助言や協力等を行うことで、調査研究手法や技術等の向上を図るとともに、金沢城及び関連する城郭や城下等の特徴や、さらにはそれらの歴史的価値についての理解をより一層深めることを目的として実施している。令和元年度は、各機関の関連城郭等に伴う瓦の出土事例等について、情報連絡会を開催した。

事業内容

情報連絡会の開催

・情報連絡会参加機関

金沢市文化スポーツ局文化財保護課埋蔵文化財センター	(金沢城下他)
七尾市教育委員会事務局スポーツ・文化課	(七尾城他)
小松市にぎわい交流部観光文化課	(小松城他)
加賀市観光推進部文化振興課	(大聖寺城他)
白山市観光文化スポーツ部文化財保護課	(舟岡山城他)
富山県富山市教育委員会事務局埋蔵文化財センター	(富山城他)
富山県高岡市教育委員会事務局生涯学習・文化財課	(高岡城他)
東京大学埋蔵文化財調査室	(加賀藩邸)

・連絡会の内容等

連絡会は2回開催し、その内容は下記のとおりである。

第1回(報告会) 令和元年7月19日 石川県教育・自治会館、金沢城跡

- ・金沢城関連城郭等における瓦の出土事例報告等
- ・参加機関による関連城郭等の調査状況
- ・金沢城跡切石積石垣確認調査の現地見学

第2回(講習会) 令和元年11月28日 石川県立美術館ホール

- ・「近世城郭における瓦について」

講師 福島県会津若松市教育委員会文化課 近藤 真佐夫氏

*令和元年度 城と庭の探求講座「金沢城大学」第4回講座



第1回 報告会の様子



第2回 講習会の様子

エ 「金沢城編年史料」等の編纂

(ア) 事業概要

第1期事業の成果を踏まえ、第2期事業では、総合的な編年史料集の編纂事業を行うこととしている。令和元年度は「金沢城編年史料 近世二」の刊行にむけて、最終的な検討と編集作業を行った。

(イ) 『金沢城編年史料 近世二』の編集・刊行

万治2年から宝暦8年までの金沢城の出来事や関連事項について、活字化されていないものも含め1154点の史料を掲載した。

史料の取載にあたっては『金沢城編年史料 近世一』と同様、平成29年度刊行の『金沢城総合年表 前編』にあげた項目をベースにしながらも、特に後代成立の史料については厳選し、調査の過程で新たに見つかった史料については、検討のうえ取載した。



「葛巻昌興日記」貞享3年8月25日条(金沢市立玉川図書館蔵)
二ノ丸御殿御居間前の能舞台がほぼ完成した旨を記している。

(ウ) 調査

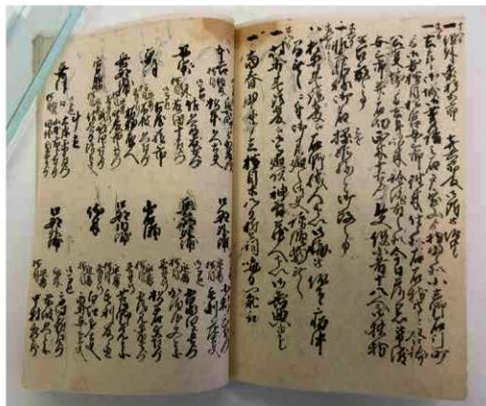
原本確認や新たな史料の発掘のため、県内外の機関で調査を行った。

- ①県内では、金沢市立玉川図書館を中心とした調査を行った。
- ②県外では、東京大学史料編纂所や国立公文書館等において確認作業を行った。

【主な動き】

- 7月23日(火) 第1回専門委員会
8月8日(木) 東京大学史料編纂所・国立公文書館における史料調査
～9日(金)
9月17日(火) 編年史料に係る打合せ(金沢城編年史料編纂協力員)

* 史料調査は金沢市立玉川図書館を中心に随時行った。



「諸事被仰出等記」宝暦6年6月21日条(金沢市玉川図書館蔵)

宝暦5年(1755)、金沢城普請で使用する石材を戸室山から搬送する際、御歩横目と「石持」の間で口論がおこったが、その事件を簡潔に記している。

(2) 基礎的調査研究事業等

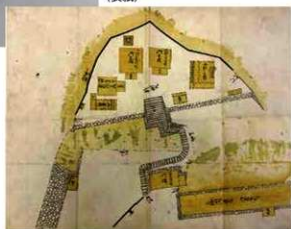
ア 絵図・文献調査

金沢市立玉川図書館等に所蔵される金沢城関連の絵図・文献史料について基本的な調査を進めた。



〔金沢城部分絵図〕 (金沢市立玉川図書館蔵)

(表紙)



(薪ノ丸部分)

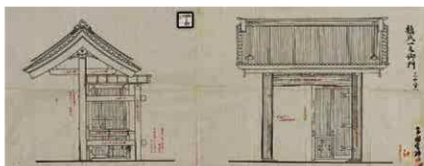
イ 建造物調査

・城門の調査

平成30年度、金沢城建物起絵図などに描かれた金沢城の城門の姿について、基礎資料としての「金沢城 城門図面集成」を作成したが、令和元年度は、これにもとづき調査成果とりまとめのための準備を行った。



金沢城古写真（11層多門と二ノ丸御殿遠景 金沢大学附属図書館蔵）



「橋爪御門等御絵図」
(橋爪一之御門の部分) (金沢市立玉川図書館蔵)



「加州金沢御城来因略記」(部分)
(石川県立図書館蔵)

ウ 金沢城埋蔵文化財資料集成

事業概要

金沢城に関する絵図・文献、埋蔵文化財、建造物、石垣等の資料については、整理・収集を行い、データベースを構築し、保存・活用を図ることとしている。

本事業は、埋蔵文化財資料のうち出土品について集成を行うものである。

事業内容

a 出土品資料集成

- ・各報告書において、個別に報告されている出土品資料（実測図や写真・観察表）を集成し、種類ごとに分類する。
- ・本年度は、瓦について作業を進め、3,146点の集成を行った。

b 出土品写真撮影委託

- ・金沢城の特徴を示すと考えられる出土品を抽出し、図録等の高品位印刷に耐えうる高精細なデジタル写真の撮影を行う。
- ・本年度は瓦（鉛瓦、石瓦、粘土瓦）、石製品、金属製品等について、撮影委託により実施し、303点の出土品について撮影を行った。



年度	種類	数量	資料種別	図録	写真	実測図	集成	備考
2017	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2018	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2019	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2020	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2021	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2022	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2023	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2024	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2025	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2026	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2027	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2028	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2029	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2030	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2031	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2032	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2033	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2034	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2035	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2036	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2037	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2038	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2039	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2040	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2041	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2042	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2043	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2044	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2045	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2046	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2047	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2048	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2049	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2050	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2051	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2052	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2053	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2054	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2055	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2056	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2057	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2058	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2059	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2060	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2061	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2062	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2063	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2064	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2065	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2066	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2067	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2068	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2069	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2070	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2071	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2072	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2073	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2074	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2075	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2076	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2077	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2078	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2079	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2080	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2081	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2082	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2083	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2084	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2085	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2086	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2087	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2088	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2089	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2090	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2091	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2092	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2093	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2094	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2095	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2096	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2097	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2098	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2099	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	
2100	瓦	10	鉛瓦	○	○	○	10	

出土品資料集成



出土品写真撮影委託

2 金沢城資料収集・デジタル化事業

事業概要

金沢城資料収集事業は、金沢城に関連する城絵図、城下町絵図等の絵図資料の写真撮影を進め、金沢城調査研究の基礎資料として、また情報発信のデータバンクとして活用するため、平成14年度から継続的に進めている事業である。

絵図資料のデジタル化

デジタル化（デジタルデータ化）によって、原寸では難しかった微細な文字情報等の判読といった絵図資料の解析が容易になる。本年度は、金沢市立玉川図書館蔵「二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」につき、スキャンニングによるデジタル化を行った。



二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形
(金沢市立玉川図書館蔵)

3 金沢城情報発信事業

事業概要

調査研究事業の成果を情報発信するために、刊行物として研究紀要及びパンフレット、金沢城史料叢書として『金沢城編年史料 近世二』、『金沢城跡－いもり堀－』『金沢城跡－鼠多門・鼠多門橋I－』の3冊を刊行した。

また、「金沢城大学」・金沢城シンポジウムの開催、金沢城ARアプリの運用、現地見学会や講師派遣を行った。

(1) 研究紀要・パンフレット・史料叢書の刊行

① 研究紀要『金沢城研究』第18号（A4判 72頁 800部）

内 容

【論文】

近世前期金沢城主前田家の学問と儒者

池田仁子

前田光高の江戸城殿中儀礼出座

木越隆三

【研究ノート】

元禄15年加賀藩邸將軍御成と国許の対応について

石野友康

城跡等から出土した石工道具の検討(1)

富田和気夫・西田郁乃

② 金沢城調査研究パンフレット No.18『初期の高石垣』

（A3判 二つ折り 10,000部）

③ 年報12（平成30年度）（A4判 32頁 600部）

④ 金沢城史料叢書36『金沢城編年史料 近世二』（A5判 366頁 700部）

⑤ 金沢城史料叢書37『金沢城跡－いもり堀－』（A4判 510頁 600部）

⑥ 金沢城史料叢書38『金沢城跡－鼠多門・鼠多門橋I－』（A4判 368頁 600部）



令和元年度刊行物

(2) 金沢城大学

城と庭の探究講座「金沢城大学」 全て〔公開講座〕

会場 石川県立美術館ホール（第1・2回は石川県文教会館ホール）

回数	実施日	講座	講師
1	10月26日(土)	〈報告1〉絵図・文献から見た初期金沢城	石川県金沢城調査研究所 石野 友康
		〈報告2〉初期金沢城の本丸とその周辺	石川県金沢城調査研究所 滝川 重徳
2	10月26日(土)	〈報告3〉初期金沢城の新丸・三ノ丸	石川県金沢城調査研究所 柿田 祐司
		〈報告4〉石垣からみた初期金沢城	石川県金沢城調査研究所 富田和気夫
		〈報告5〉聚楽第・伏見城と初期金沢城	京都府立丹後郷土資料館 森島 康雄
		パネルディスカッション 「近世城郭 金沢城の成立-本丸御殿の時代-」	司会：石川県金沢城調査研究所 所長 木越 隆三 パネリスト：講師5名
3	11月14日(木)	加賀藩の明治維新をどう捉えるか -「旧藩」の叙述と顕彰-	玉川図書館近世史料館学芸員 宮下 和幸
4	11月28日(木)	近世城郭における瓦について	福島県会津若松市教育委員会 近藤真佐夫
5	12月5日(木)	金沢城の建築あれこれ	建築史家 田中 徳英
6	12月19日(木)	兼六園の特徴 ～折りと願いの込められた庭園～	金沢城・兼六園研究会 副会長 佐野 烈
7	1月16日(木)	ことじ灯籠の謎	金沢城・兼六園研究会 名誉会員 加藤 力
8	1月30日(木)	宮家・公家と前田家の婚姻	石川県郷土史学会 幹事 横山 方子

※第9・10回は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止のため、中止

(3) 「金沢城ARアプリ」運用

金沢城や兼六園に関する調査研究の成果などを「歴史・文化プレミアム情報」として配信するスマートフォン用解説アプリ「金沢城ARアプリ」を運用した。

(4) 講師派遣

- *金沢大学「日本文化・社会学習プログラム」(5/10)
- *県政出前講座(谷内町シルバー桜泉会)(5/23)
- *金沢市キゴ山ふれあい研修センター「キゴ山戸室石観祭会」(9/29)
- *全理協中部北陸ブロック連絡会(10/25)
- *奈良文化財研究所「令和元年度 庭園の歴史に関する研究会」(11/24)

(5) 金沢城シンポジウム

金沢城調査研究事業の成果を踏まえて、「近世城郭 金沢城の成立」をテーマにシンポジウムを開催し、調査研究で得られた金沢城の新たな価値と特徴を広く県内外に発信した。当日は県内外から300名の参加があった。

期 日 令和元年10月26日(土)
会 場 石川県文教会館ホール(金沢市尾山町10-5)
主 催 石川県、石川県教育委員会
主 題 「近世城郭 金沢城の成立 -本丸御殿の時代-」
対 象 一般県民、全国の城郭愛好家及び研究者等

10月26日(土) 10:30～16:30
10:00 会場、受付
10:30 開会
主催者挨拶 白井晴基(石川県教育次長)
10:35～11:15 報告 1 石野友康(石川県金沢城調査研究所)
「絵図・文献からみた初期金沢城」
11:15～12:00 報告 2 滝川重徳(石川県金沢城調査研究所)
「初期金沢城の本丸とその周辺」
13:00～13:40 報告 3 柿田祐司(石川県金沢城調査研究所)
「初期金沢城の新丸・三ノ丸」
13:40～14:20 報告 4 富田和気夫(石川県金沢城調査研究所)
「石垣からみた初期金沢城」
14:20～15:10 報告 5 森島康雄(京都府立丹後郷土資料館)
「聚楽第・伏見城と初期金沢城」
15:20～16:30 パネルディスカッション
「近世城郭 金沢城の成立-本丸御殿の時代-」
16:30 閉会



パネルディスカッション



会場風景

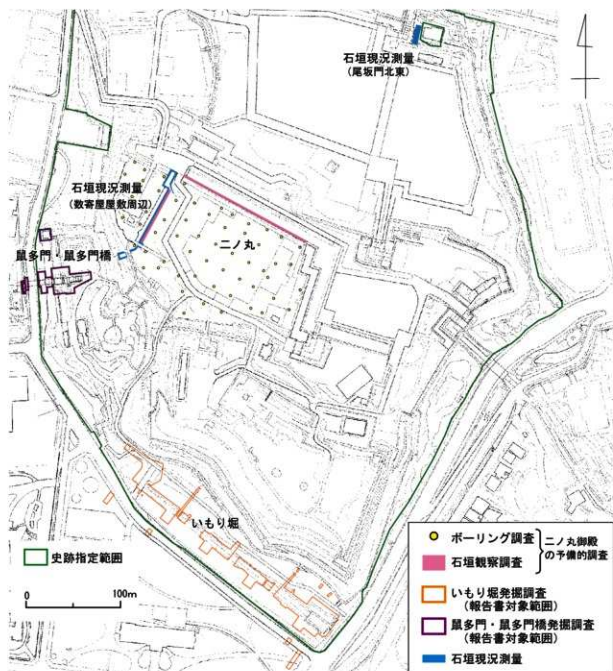
4 その他の事業（金沢城公園整備等に伴う調査等）

（1）事業概要

令和元年度は、金沢城公園整備事業（県公園緑地課所管）に係る二ノ丸御殿の予備的調査、鼠多門・鼠多門橋といもり堀の出土品整理、報告書作成を行ったほか、石垣現況測量を実施した。

二ノ丸御殿については、平成30年度から着手した復元可能性に係る調査検討の一環として、予備的調査を実施した。鼠多門・鼠多門橋については、平成26年度から30年度にかけて実施した埋蔵文化財調査の成果のうち、門・通路等の遺構を対象とした報告書第一冊目を刊行した（鼠多門橋の遺構、出土遺物については令和2年度に報告書刊行予定）。またいもり堀の埋蔵文化財調査（平成10・12・15・16・18～21年度）に係る報告書を刊行した。

石垣現況測量については、数寄屋敷周辺、尾坂門北東石垣の三次元計測・図化等を実施した。



(2) 二ノ丸御殿の予備的調査

調査の概要

石川県では平成30年度に「金沢城二の丸御殿調査検討委員会」を設置し、その復元可能性について検討を行ってきた。

令和元年度は、予備的調査として、地質調査（ボーリング調査）・石垣観察調査（建造物等痕跡の確認）等を実施した。

調査の概要

(ア) 地質調査（ボーリング調査）

・二ノ丸御殿の最終地盤面

明治14年（1881）に御殿が焼失した後の整地層と考えられる、炭泥じり層や瓦を多く含む層等を検出し、御殿地盤のおおよその高さが推定できた。

二ノ丸主要部：標高48.5～49.1m前後

数寄屋屋敷（二ノ丸西部）：標高45.5～45.8m前後

・近代以後の状況

近代以後の造成土の厚さについて、おおよその情報を得た（推定される構面まで、現地表から50～100cm程度）。また、戦後に建造された金沢大学建物の範囲は、御殿地盤の下まで大きく攪乱を受けている可能性が高まった。一方、軍隊建物による攪乱は比較的軽微であると推定された。

・二ノ丸の造成と旧地形の状況

二ノ丸の北部から東部にかけての広い範囲で、厚さ最大約9mの盛土造成により、現況の郭が形成されていることが明確になった。盛土の大部分は、寛永8年（1631）の二ノ丸普請に伴うと考えられる。

地山の検出レベルから、寛永8年以前の縄張は、二ノ丸北東部（標高40～42m前後）、二ノ丸南部（47～49m前後）、二ノ丸北西部・数寄屋屋敷（44～45m前後）の三区画に大別される可能性がある。

(イ) 石垣観察調査

・二ノ丸北面石垣上面では、建造物の痕跡（出窓腕木の掘付痕等）は認められなかった。

・数寄屋屋敷との境界をなす石垣では、嘉永6年（1853）の普請と推定される階段石垣の取付痕跡を確認した。

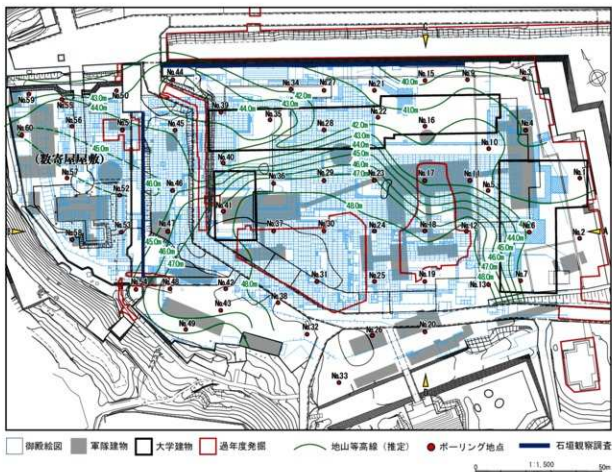
(ウ) その他

・文化5年（1808）の大火後に再建された二ノ丸御殿の内装等に関する史料等を新たに確認した。

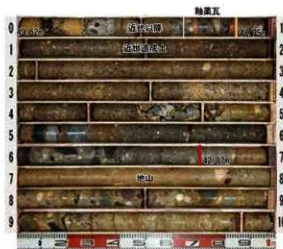
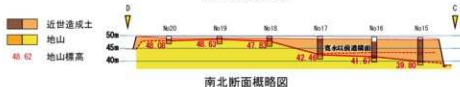
「二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」（金沢市立玉川図書館蔵）

文化8年（1811）に加賀藩御大工の井上庄右衛門がまとめた二ノ丸御殿の内外表に関する記録。

仕様書1冊・唐紙等の見本1冊・鉤金具図面2冊の計4冊からなる。



ボーリング地点位置図・地山推定等高線・石垣観察調査地点位置図



(3) 報告書の刊行

(ア) 『金沢城跡-いもり堀-』

平成10、12、15、16、18～21年度に実施した金沢城公園整備に伴ういもり堀の発掘調査についての埋蔵文化財確認調査報告書を刊行した。

『金沢城跡-いもり堀-』

A4判 510頁、部数 600、令和2年3月31日刊行

例言・凡例・目次	
第1章 経緯と経過	第1節 調査に至る経緯 第2節 調査の経過
第2章 位置と環境	第1節 金沢城と周辺の歴史的環境 第2節 金沢城の沿革 第3節 いもり堀の沿革 第4節 既往の調査成果
第3章 調査の概要	第1節 調査の目的と対象区域 第2節 調査の方法
第4章 遺構調査	第1節 堀北部の調査 第2節 堀南部の調査
第5章 出土遺物	第1節 陶磁器・土器 第2節 瓦 第3節 金属製品 第4節 石製品 第5節 木製品
第6章 自然科学的調査	第1節 木製品・加工木の樹種同定 第2節 放射性炭素年代測定 第3節 塗膜分析
第7章 地質調査	第1節 調査の経緯 第2節 調査の方法 第3節 基本土層 第4節 調査の結果 第5節 小結
第8章 総括	
引用・参考文献 報告書抄録	
写真図版	

(イ) 『金沢城跡－鼠多門・鼠多門橋 I－』

平成 26～30 年度に実施した金沢城公園整備（鼠多門・鼠多門橋復元整備）に伴う埋蔵文化財調査報告書の第 1 分冊を刊行した。第 1 分冊では、鼠多門復元整備に係る遺構を中心に報告したが、第 2 分冊では鼠多門橋及び遺物等について報告を予定している。

『金沢城跡－鼠多門・鼠多門橋 I－』

A 4 判 368 頁、部数 600、令和 2 年 3 月 31 日刊行

例言・凡例・目次	
第 1 章 経緯と経過	第 1 節 調査に至る経緯 第 2 節 調査の経過
第 2 章 位置と環境	第 1 節 金沢城と周辺の歴史的環境 第 2 節 金沢城の沿革 第 3 節 鼠多門（玉泉院丸）の沿革 第 4 節 既往の調査成果
第 3 章 調査の概要	第 1 節 調査の目的と対象区域 第 2 節 調査の方法 第 3 節 基本順序 第 4 節 調査の概要
第 4 章 調査の成果	第 1 節 概要 第 2 節 槽部の遺構 第 3 節 門部の遺構 第 4 節 側壁石垣 第 5 節 通路部の遺構 第 6 節 鼠多門周辺の遺構 第 7 節 近代以降の遺構 第 8 節 玉泉院丸北西槽台石垣
第 5 章 物理探査	
第 6 章 総括	第 1 節 鼠多門に関する遺構 第 2 節 近代の遺構について
引用・参考文献 報告書抄録	

事業費

令和元年度（最終予算額）

（単位：千円）

事業名	事業費
金沢城調査研究所運営費 （金沢城調査研究委員会の開催等）	10,088
金沢城調査研究事業費 総合研究 ・城郭庭園等の総合研究 ・石垣保存管理技術等の総合研究 ・金沢城関連城郭等との連携 ・『金沢城編年史料』等の編纂 基礎的調査研究 ・絵図・文献の基礎的調査 ・建造物の基礎的調査	9,297 284
金沢城資料収集・デジタル化事業費 （絵図撮影等）	1,047
金沢城情報発信事業費 （史料叢書、研究紀要等の刊行、 金沢城シンポジウムの開催等）	2,913
合 計	23,629
その他の事業費 ・金沢城公園整備に伴う調査	105,802
合 計	105,802
再 計	129,431

石川県金沢城調査研究所日誌（抄）

（平成31年）

4月5日（金） 絵図・文献調査開始（金沢市立玉川図書館）（～3/31）

4月16日（木） 第4回金沢城二の丸御殿調査検討委員会

（令和元年）

5月7日（金） 切石積石垣確認調査開始（～9/3）

5月10日（金） 講師派遣（金沢大学「日本文化・社会学習プログラム」）

5月13日（月） 金沢城・兼六園関連 合同打合せ

5月14日（火） 金沢城史料調査に係る現地指導（二の丸御殿）

5月23日（木） 県政出前講座講師派遣（谷内町シルバー桜泉会）

5月27日（月） 石垣保存管理技術等の総合研究に係る打合せ（奈良県 奈良文化財研究所）

6月7日（金） 石垣保存管理技術等の総合研究に係る検討会

第1回埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会

6月11日（火） 金沢城調査研究関係機関連絡会

6月11～21日 いもり堀出土大型建築部材の調査（県埋文センター）

6月12日（水） 金沢城調査研究に係る現地指導

6月17日（月） 金沢城跡埋蔵文化財調査に係る現地指導（いもり堀出土大型建築部材）

6月26日（水） 第1回金沢城調査研究委員会

6月27日（木） 金沢城史料調査に係る現地指導（二の丸御殿）

7月5日（金） 香川大学山中氏金沢城視察

7月12日（金） 切石積石垣確認調査に係る現地指導

7月19日（金） 切石積石垣確認調査に係る現地指導

第1回金沢城関連城郭等情報連絡会

7月20～21日 第31回小峰城跡石垣検討委員会（福島県白河市）

7月23日（火） 第1回絵図・文献専門委員会

7月26日（金） 文化財建造物保存技術協会金沢城視察

8月7日（木） 金沢城二の丸御殿調査検討委員会打合せ会

8月8～9日 文献史料調査（国立公文書館ほか）

文献史料調査（もりおか歴史文化館ほか）

8月20～23日 令和元年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会（北海道札幌市）

8月22日（木） 切石積石垣確認調査 現地説明（報道向け）

8月23日（金） 第1回七尾城跡整備基本計画策定委員会

8月25日（日） 切石積石垣確認調査 現地公開

9月3～4日 文献史料調査（山口県文書館）

9月6日（金） 元離宮二条城事務所金沢城視察

9月17日（火） 金沢城編年史料編纂協力員会議

9月24～27日 文化財マネジメント職員養成研修（東京都分寺町）

9月28日（土） 第32回小峰城跡石垣検討委員会（福島県白河市）

- 9月29日(日) 講師派遣(金沢市キゴ山ふれあい研修センター「キゴ山戸室石観察会」)
- 10月24日(木) 青森県議会民主連合会派金沢城視察
- 10月25日(金) 講師派遣(全理協中部北陸ブロック連絡会)
- 10月26日(土) 金沢城シンポジウム「近世城郭 金沢城の成立 -本丸御殿の時代-」
- 11月7日(木) 文化庁調査官による現地指導
- 11月8日(金) 金沢城跡石垣保存実態調査に係る現地指導
- 11月11日(月) 金沢城石垣保全指導会
- 11月21日(木) 福岡市議会文化・スポーツ振興推進協議会金沢城視察
- 11月24日(日) 講師派遣(奈良文化財研究所「令和元年度 庭園の歴史に関する研究会」)
- 11月27日(水) 金沢城調査研究に係る現地指導
- 11月28日(木) 第2回金沢城関連城郭等情報連絡会
- 11月29～30日 第33回小峰城跡石垣検討委員会(福島県白河市)
- 12月12日(木) 文献史料調査(前田育徳会)
- 12月19日(木) 金沢城調査研究委員会委員 嶋崎丞氏逝去

(令和2年)

- 1月11～12日 第34回小峰城跡石垣検討委員会(福島県白河市)
- 1月27～28日 資料調査(若松城跡ほか)(福島県会津若松市)
- 2月1日(土) 第5回金沢城二の丸御殿調査検討委員会
- 2月3～4日 資料調査((一財)大阪市文化財協会ほか)(大阪府大阪市)
- 2月4日(火) 報告書データベース作成に関する説明会(愛知県名古屋市)
- 2月13～15日 第17回全国城跡等石垣整備調査研究会(岡山県津山市)
- 2月20日(火) 第2回金沢城調査研究委員会
- 3月3日(火) 第2回七尾城跡整備基本計画策定委員会
- 3月16～17日 佐賀県立名護屋城博物館・佐賀県文化課文化財保護室金沢城視察
- 3月27日(金) 玉川図書館収蔵資料の文化庁調査官現地調査(玉川図書館)

金沢城に関する新聞報道

(平成 31 年)

- 4月15日(月) 鼠多門 骨組み仕上がる／金沢城公園／上棟式、来年に完成(北國新聞夕)
4月21日(日) 鼠多門復元 卓越の技／県、初の現場見学会／金沢城公園／随所に工夫「職人さんすごい」(北國新聞)

(令和元年)

- 6月4日(火) 鼠多門寄付 目標到達／県の金沢城整備／1カ月早く終了(北國新聞)
6月13日(木) 二の丸御殿復元へ／来月にもボーリング(北國新聞)
8月10日(土) 歴史をつなぐ／金沢城・鼠多門復元／平瓦や壁板にメッセージ(北國新聞夕)
8月12日(月) 「庭園の象徴」5代綱紀築造／玉泉院丸の色紙短冊積石垣／金沢城調査研・発掘調査で確認／造園当初には存在せず(北國新聞)
10月3日(木) 鼠多門橋 お目見え／金沢城 往時の姿／尾山神社側 16.9%部分完成(北國新聞)
10月27日(日) 金沢城の歴史学ふ／県文教会館でシンポ(北國新聞)
11月6日(水) 鼠多門 7割完成／県、30日に見学会(北國新聞)
11月25日(月) 鼠多門橋の下 通行可能に／金沢城／尾山神社側(北國新聞夕)
12月8日(日) 鼠多門 復元進む／橋は神社側の半分完成(朝日新聞)
12月12日(木) 金沢城二の丸御殿「調査検討は長期に」(北國新聞)
12月14日(土) 金沢城公園で復元技術や活用学ふ／JICA 研修(北國新聞)

(令和2年)

- 1月1日(水) 二の丸御殿 仕様書発見／金沢城／復元へ大きく前進／壁紙など実物も添付
(北國新聞)
1月6日(月) 新年度に基本方針／金沢城二の丸御殿復元／表向から段階的に着手／知事年頭会見で表明(北國新聞夕)
1月31日(金) 金沢城調査委 二の丸広場を初視察／あす、復元可能性を検討／県民の期待盛り上げ／谷本知事インタビュー(北國新聞)
2月2日(日) 二の丸御殿「新史料が鍵」／金沢城復元検討委／近く最終報告へ(北陸中日新聞)
2月5日(水) 金沢城二の丸「復元可」／「表向」居住空間は調査続行／仕様書の発見後押し／検討委報告(読売新聞)
2月15日(土) 金沢城二の丸広場／御殿復元に埋文調査／半世紀ぶり、遺構掘り起こす／基本方針策定へ位置確認(北國新聞)
2月17日(月) 鼠多門橋 つながら／金沢城 復元整備／五輪開幕までに完成(北國新聞夕)
2月19日(水) 百万石回遊ルート発信／今夏の鼠多門・橋完成機に／尾山神社や金沢城、兼六園／5言語で案内板／県 新年度、解説アプリ提供(北國新聞)
3月4日(水) 二の丸御殿の歴史や新史料／鶴の丸丸体館館で展示／「御殿の内装の様子わかる珍しい事例」新史料に文化庁／次の子年までには(北國新聞)
3月7日(土) 海鼠壁に黒漆喰／着手／金沢城鼠多門復元／進捗8割(北國新聞)
3月23日(月) 鼠多門橋の下 両側通行を再開／1年5カ月ぶり(北陸中日新聞夕)
3月30日(月) 金沢城御殿の杉戸発見／現存唯一、復元史料に／白山・山岸さん保管／新史料や百工比照に類似金具(北國新聞)

金沢城調査研究所年報13

(令和元年度)

令和2年6月 発行

編集・発行 石川県金沢城調査研究所

〒920-0918

石川県金沢市尾山町10番5号

電話 076-223-9696 FAX 076-223-9697

E-mail kncastle@pref.ishikawa.lg.jp

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/kanazawazyo/index.html>